





慰霊の日 詩の朗読 西辺中・上原美春さん 最優秀賞受賞



第31回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門中学生の部に、西辺中2年の上原美春さんの「みるく世(ゆ)の謳」が、見事最優秀賞に選ばれ、6月22日宮古島市教育委員会を訪れ受賞報告を行いました。

翌日、6月23日糸満市平和祈念公園にて行われた沖縄全戦没者追悼式で詩の朗読を行いました。



【上原美春さんの感想】

平和の詩の朗読は、4年前の姉の詩からの憧れだったので、朗読の機会を頂けることになったと聞いて今度は自分がその役目を任される事が素直にとっても嬉しかったです。でも当日実はとても怖くて、毎年テレビで中継をみていたとはいえ、式の荘厳な雰囲気や御霊を偲ぶ周りの様子に圧倒されました。降っていた雨が頑張れと言っているようで、私のことをたくさんの方が見守ってくれていると思ったら、勇気が湧いてきました。

今年の6月23日の体験は、この先一生忘れられないでしょう。チャンス을 いただいたこと、無事役目を終えられたことに感謝の気持ちでいっぱいです。「みるく世の謳」が、皆さんの平和を考えるきっかけになったら嬉しいです。



宮古島市総合博物館



みゅーじあむニュース



十五夜のシーシャガウガウ

十五夜とは、旧暦の毎月15日の満月の夜のことをさします。  
十五夜は毎月ありますが、なかでも旧暦の8月である「中秋」は、月がもっとも明るく美しく見えるとされることから、旧暦の8月15日の月は「中秋の名月」と呼ばれています。私たちが呼ぶ「十五夜」もこの日をさし、今年は9月21日（火）が十五夜にあたります。



↑獅子頭

以前は、宮古の子ども達にとって十五夜はとても楽しみにしている行事の一つでした。十五夜が近づくと子どもたちはグループに分かれ、月見をするための台を作っていたそうです。この月見台は、「ジュウグヤユカニ（十五夜床）」や「ジュウグヤタナ（十五夜棚）」と呼ばれており、当日はそこでお菓子を食べたり、踊りや劇を発表したりしていたそうです。

また、平良地区の一部の地域では、子ども達がグループにわかれ、獅子頭（シーシャ）作りをし、十五夜当日の夕方に地域の各家をまわり獅子舞

（シーシャガウガウ）を披露する風習が現在も見られます。



↑月見台

獅子頭や月見台には、他にも色々な形があったそうです。



連載

## 文化財を巡る

No.50



## 「スムリヤミヤカ」

スムリヤミヤカは、宮古島市下地字米間二四八番地に所在するミヤカで、一九七五(昭和五〇)年二月一三日に沖縄県の史跡に指定をうけています。

スムリヤミヤカは、琉球石灰岩を加工した板石で囲いを行い、内部に石棺を設けていますが、石囲いの大部分は崩落しています。石囲いの全体形は、内部の状況から長方形をするものと考えられ、東西約九メートル、南北六・五メートル、高さは約二・五メートルで、サビミヤカなどと並び大型のミヤカになります。

石囲いの内部は、石棺の天板の板石と同じ高さまで二〇〜四〇センチ大の未加工の琉球石灰岩が敷き詰められ、平坦面を形成しています。そして、石囲いの内部には、琉球石灰岩を三〜五段の石積囲いがなされています。

この石積囲いの内部には、遺物が多く散乱しており、一七世紀から一九世紀の焼き物である沖縄産陶器の壺や甕が最も多くみられ、灰釉碗や、中国の福建・広東産の青花、宮古島産の壺形の土器片なども確認できます。これまでには、スムリヤミヤカで青磁の出土なども確認されており、スムリヤミヤカの年代が一六世紀代にまでさかのぼる可能性が指摘されていますが、現在では青磁などの遺物は確認できず、明らかかな年代については検討の余地を残しています。

石棺部分は、前述したように琉球石灰岩が敷き詰められているためその詳細を確認することは難しい状況にあります。天板の石は、長辺が三メートル、

短辺が二・三メートルの略方形をなし、現在では複数に割れていますが、確認できるミヤカの天板の石としては最大のものになります。部分的に割れている面から、石棺の内部を確認すると、内部は四辺をビーチロツクの板石で壁面とし、板石を用いてさらに内部を二つに区画しています。石棺の入り口部分は、横穴式に空間が設けられています。このような形態の石棺は、他のミヤカにみられないスムリヤミヤカの特徴であるといえます。

米間島には、スムリヤミヤカ以外にもアースミヤカなどの複数のミヤカがあったとされ、ミヤカの形態的なバリエーションを考える上でも大変重要な文化財であるといえます。

※石積みは大変崩れやすくなっており、文化財保護のために石にあがらないようお願いいたします。



## 発行のお知らせ

しっかい

### 宮古島市史『第二巻祭祀編(下) 悉皆調査

#### <城辺地区・上野地区・下地地区・伊良部地区・多良間村>』

令和3年3月に宮古島市史『第二巻祭祀編(下) 悉皆調査<城辺地区・上野地区・下地地区・伊良部地区・多良間村>』が発刊されました。

今回発刊いたしました下巻では、城辺、上野、下地、伊良部、多良間の全集落の祭祀を対象とし、236件もの祭祀が収録され、頁数は751頁にのぼります。宮古島の祭祀を後世に伝え、学んでいく上で大変参考になる本となっておりますので、多くに市民の皆様手にとっていただければと思います。

今回ご紹介した宮古島市史は、BOOK'きょうはん宮古南店、TSUTAYA宮古島店で7,000円で販売しております。

また、第一巻「通史編」3,500円、第二巻「祭祀編」(上)・(下)各5,000円についても引き続き販売しております。(いずれも消費税込み)。

